

令和7年度 学校評価 幼稚園結果

令和8年3月末 学校教育課まとめ

No.	幼稚園名	今年度重点目標	学校自己評価結果					学校関係者評価			表示以外の評価「分野」		
			項目数	No.	分野	重点目標	評価項目・取組状況	達成状況	改善方針	評価項目		実施方法	総合
1	宮川幼稚園	1 教育課程の推進 2 幼児期から就学施設への円滑な接続の推進 3 地域と連携した豊かな保育や子育て支援	2	1	教育課程	1 2	○身近な生き物とのふれあいや、草花、自然の事象に心をよめ、幼児・職員・保護者が能動的・主体的に関わり、試行錯誤しながら、意味を見出せる方法を模索してきた。また、実体験を軸にICT機器を活用しながら幼児・保護者・地域が連携できるように可視化してきた。 ○幼児、職員、保護者が共に探究する意欲がもてるように環境を設定してきた。 ○小中学校と連携し、相互に訪問する機会をつくった。幼児が小中学校の環境や先生・児童・生徒に親しみを持ち、成長することへの期待感を高められるように連携を図った。	A	○芦屋市の教育課程に沿って実体験を中心にICT機器を活用しながら主体的・対話的な保育を展開していく。幼児の「好き」もつと知りたいたいという気持ちを引き出し、科学する心が芽生える保育を目指していく。そのために家庭・地域・教育財団等の評価を受け、子どもたちの2年間をかけての姿を確かに捉え、就学以降の育ちにつながるよう日々の検証を行う。	○日々の生活の中から子ども達の疑問や思いを引き出し、子どもたちの探究心と可能性をひきだす保育を展開している。 ○2年間の育ちの過程がよくわかる。とくに年長は2年間の姿がよくわかる。 ○教育施設間の連携において互いに刺激しあう有意義なものとなっている。来年度も子どもたちの育ちを願い連携を推進されることを願う。	○評議員会及び学校関係者評価委員会を対面で行った。 ○保育の様子を参観いただく。 ○保護者アンケートを実施し、集約して保護者へ周知している。 ○学校評価アンケートの結果を可視化し、評価を受ける。	○少人数を感じさせない保育である。園児数の減少を食い止めるために地域として協力していきたい。 ○実体験をもとにICTを活用した将来を見据えた保育実践を評価する。とくに年長児の発信する力がついでいる。子どもたちの今後が楽しみである。	地域連携
2	岩園幼稚園	1 幼児同士が響きあい、学び合える教育の推進 2 幼児期から小学校期への円滑な接続の推進 3 地域と連携した心豊かな保育や子育て支援	2	1	教育課程指導	1-2	○幼児が安定する環境作りをし、遊びに心ときめき、友達とひらめきあう保育の推進をする。 3年間の継続したカリキュラムに基づいて、幼児の興味・関心に応じた遊具、用具、素材などを準備したり、自然環境を取り入れたりすることから幼児の主体的な活動を支え、幼児の成長に繋げてきた。 ○こども園、保育所と幼児の交流の機会や、職員研修の場をもった。近隣の小学校2校と幼児、児童の交流を計画的にしたり、幼稚園、小学校の連携に繋がる研究会に参加しあえたりした。	A	○幼児の内面の動きをより細やかに捉えるための記録を職員間で工夫してきた。また、職員間で話し合い、対話する機会をもってきたことで、全職員が共通理解を図り、幼児の育ちを支える保育を実践した。 ○11月に東支部研究会を行い、保育公開や実践発表をした。小学校や就学前施設との意見交流ができた。	○3年保育を通して各学年のねらいに基づいた保育を実践していることがよく分かる。またクラスの幼児同士や他学年との関わりも響きあうという視点から、幼児が成長していることが感じられた。 ○次年度に向けて「探究」に視点を当てて取り組んでいくことは、小学校と繋がっていることである。 ○チャレンジの保育参観や劇遊びの実践から、一人一人の幼児が主体的に取り組む、友達と関わりを深めていることが分かる。職員の幼児への丁寧な内面の読み取り、継続した支えがある。	園の教育目標、重点目標から評価項目を選び、保護者対象の教育アンケートと教職員対象の自己評価が適切に実施されている。	重点目標に対しての取組が適切になされ、次年度に向けての改善方針も考えられている。	子育て支援
3	小槌幼稚園	1 心も体もたくましい幼児を育むための教育の推進 2 幼稚園や地域の特性を生かした保育内容の実施 3 子育て支援の充実	2	1	教育過程	1 2	・園の教育目標である「心も体もたくましい幼児の育成」に向けて、大阪総合保育大学の講師の先生をお招きし、市内公開園内研究会を行った。園の研究テーマでもある幼児が心わくわくし、幼児がつながり合うための教師の援助について研究を深めた。幼児の内面を細やかに読み取り、心わくわく、やってみたくと思うことが学びの芽になると、幼児が主体的に遊ぶために、教師はどのような立ち位置でどのように援助をしていくかを常に考え援助をしていくことの大切さを学んだ。 ・同志社大学の先生を講師にお招きし、年間8回、運動遊び(巧技台、鬼ごっこ)に取り組んだ。個々の運動機能が育まれたことはもちろんであるが、友達同士思いを出し合いながら共に遊ぶ楽しさを味わうことにつながった。 ・園の畑で野菜を育て収穫をする喜びや収穫物をみんなでいただく、食育の推進に努めた。 ・園が中心となり地域の就学前施設と、年間を通し交流を深めた。互いの教育を知り教師の資質能力を高め合う機会となった。	B	・今後も、一人一人の幼児の内面を細やかに読み取り、幼児理解に努める。 幼児がやってみたく思う学びの芽を育み、友達とつながり合いながら成長できるように環境作りや教師の援助を探り、継続して研究を深めていく。 ・園内研究会を通して、講師の先生からの指導を職員で共有し、教師の資質を高めることで、幼児の育ちにつながるように努めていく。 ・地域の就学前施設との交流では、幼児期の育ちを小学校へと接続できるように、園が中心となり努めていく。	・2月に実施した「教育評価アンケート」でも園の教育活動への高い評価を得ており、保護者の幼稚園への信頼が伺える。 ・子どもが幼稚園に通うことを喜んでくれているという問いでは「そう思う」に100%の評価されていることが素晴らしい。小学校、中学校へもつなげていくことが大切である。 ・一年を通して、子どもが成長していることがよく見える。今後も、園が中心となり、近隣の就学前施設との交流や小学校への学びの接続しながら幼稚園教育をよきよき大切にしていってほしい。	・保護者の教育評価は具体的に丁寧に取り組みは良好である。今後も、家庭や地域との連携を大切に、園の特徴を活かしながら、教育活動や内容を考え、工夫していくことを期待する。	子育て支援	

4	西山幼稚園	<p>1 響き合う仲間を育むための教育の推進 2 心豊かな幼児を育む地域との連携の研究 3 子育て支援活動の充実</p>	2	1 教育課程	<p>1 2</p> <p>○響き合う仲間を育むための教育の推進 友達と互いに思いを出し合い、認め合えるような保育を実践してきた。行事でも友達と協力する中で、個々が充実感や達成感を味わえる経験となった。 ○心豊かな幼児を育むための教育の推進 「学びに向かう力」を多角的に分析した。個々の育ちを捉えた研究を進めたことにより適切な支援や指導につながった。 ○小中学校・保育園、こども園と計画的な交流をもったり、地域の方に行事に参加していただき、多様な人々と関わる喜びや親しみ、つながりを育んだ。</p>	A	<p>・個々の幼児の内面理解をさらに深め、友達と協力し、認め合いながら、響き合う保育を具現化していく。 ・異年齢活動の計画を一層充実させ、幼児の育ちにつながるようにする。 ・幼小中での連携について、教員の連携や研究を深めていく。地域の保育園、こども園との計画的な交流を継続し円滑な接続と幼児の成長を支える連携体制をさらに強化する。</p>	<p>・アンケートの結果や参観の様子から、園児の心身の健やかな成長が伺える。教諭が一人一人の個性を丁寧に把握し、少人数のよさを生かしたきめ細やかな指導が行われている。 ・城山登山やモリアオガエルの飼育など、豊かな自然環境を生かした西山ならではの特色ある保育が実践されている。 ・地域の保育園こども園との交流は、園児や地域にとって、極めて有意義である。今後つながりを継続・深化させていくことを期待する。</p>	<p>園の教育目標、重点目標から評価項目を選び、保護者対象の教育評価アンケートと教職員対象の自己評価が適切に実施されている。また、回収率が100%であることがよい。</p>	<p>教育活動の取り組みや教育評価は良好である。今後も、家庭や小中、地域との連携に努め、安心して幼児が過ごせる幼稚園となるよう、教育内容や子育て支援の推進、情報発信の方法の画策を期待する。</p>	子育て支援
5	潮見幼稚園	<p>1 健やかな心と体の育成 2 環境を生かした園経営 3 開かれた幼稚園づくり(子育て支援)</p>	4	1 教育課程	<p>1 2</p> <p>心身共に健康でたくましい幼児を育成することを目指し、チャレンジ遊びや運動遊びを取り入れてきた。年長と年少の異年齢の活動「うきうきタイム」を充実させた。言葉が通じない外国にルーツのある子ども、一緒に体を動かす遊びを楽しむことで、心が通じ合えた。保育の様子をブログや動画等で発信し、幼稚園教育の理解を深めた。</p>	B	<p>木村泰子先生を講師に、継続した研究体制を作る。多様性を認め合う仲間づくり、異年齢の交流も充実させていく。年間計画を見直し、保育のねらいや教師の願いを保護者や地域の人々に今後も分かりやすく発信していく。</p>	<p>恵まれた環境の中で様々な体験をし、幼児は主体的で、逞しく育っている。様々な国からの入園があり、多様性を認め合う仲間づくりができていく。年長児は年少児を思いやる気持ちが、年少児は年長児にあこがれる気持ちが育っている。本園の教育方針に保護者も満足している。</p>	<p>・学校評議員会を3回開催し、教育の取り組みを写真や動画で紹介し、意見をいただく。 ・日々の保育内容や取り組みをブログや園だよりで発信している。 ・運動会や生活発表会など参観してもらう。 ・保護者アンケートの結果を集約し、保護者と評議員に周知している。職員アンケートの結果は評議員に伝えている。</p>	<p>様々な体験ができる取り組みが素晴らしい。主体性を大事にし、自分で考え行動する力と、友達とつながる力を育んでいる。保護者がとても熱心で、潮見幼稚園愛がすごい。子どもが満足しているから保護者も満足している。</p>	園経営